

LA DOLCE VITA

海とイタリアをこよなく愛し、ワイン、アート、マリン文化に深い造詣を持つ伊藤英一氏。氏がこれまで体験してきた地中海のマリタイムの煌めきを中心に、海と食とボートに関わる彼らのライフスタイルを語る。

text & photo: Eiichi Ito

#33 氷上競馬「White Turf」

White Turfとは

スイスのサンモリッツで年間に3日のみ行われる氷上の競馬「White Turf（ホワイトターフ）」は、完全氷結したサンモリッツ湖に雪を敷いて圧雪した競馬のコース上で3種類の競馬を行うもので、その歴史は既に110年の歴史を有するという。

以前から一度、目の前でこの氷上のバトルを見たいと望んでいたのが漸く実現した。2月の第3日曜日の午前、サンモリッツ駅から見下ろすと氷結したサンモリッツ湖に敷き詰められた美しくトリミングされたレースコースがキラキラと輝いていた。ゲートで25スイスフラン(2,800円)を支払って入場券を手に入れる。実は日本でネット上でのWhite

Turfの入場券を手に入れようと調べたところ、着席タイプの1万円と1万5千円のチケットのみ購入可能とあった。念の為宿泊する予定のホテルに問い合わせしてみると、「当日入場券がリーズナブルに手に入り、先ずは入場してから着席券が欲しければ追加で購入可能ですよ」との返信メールを受け取った。実際に入場してみると入場券のみは立見だが、コースの木製柵に陣取る事が出来るので、迫力あるレースをまさにかぶりつきで見ることが出来たので現地調達の立見が正解だった。

優雅なレース場風景

サンモリッツの晴天日数は年間325日とのデータ通り、当日も雲一つない真っ青な空と

一面の純白の雪、山腹に林立する高級ホテル群の対比が頗る美しい。湖の上に巨大な会場がしつらわれ別世界が出現していた。氷の上に雪が敷き詰められた純白の場内を歩くとキュキュッと音がする。地元シェフやホテルが outlet しているシャンパンバー、フードコート、ビアガーデン等の特設テントがあちこちに配置され、なかなか華やかである。シャンパンバーでは生牡蠣、手長海老や生雲丹のプレートが彩を添える。

もはや日本や米国の都市では見る事がほぼ無くなったリアルなファーを着こなしている人達が闊歩し、シャンパンバーでフルートグラスを傾げるのも様になっているのは、サンモリッツならではの光景である。White Turfの公設サイトによると、この期間中に



「ホワイトターフ(白い芝)」での雪上レースは、サラブレッドにとって芝コースより強く蹄を蹴らなくてはならないと言う。馬の団が通り過ぎる時の馬の蹄音と雪煙はすざましい。コーナーに陣取っていた僕はその圧倒的な迫力に後退りする程だった。



スタンドは2,200席あるとの事だが、最終的には満席となった。馬券を求める人々の列あり、シャンパンニコ片手に海の幸を堪能する人々ありと、場内は着飾った紳士淑女で溢れていた。まさに、アルプスの社交場と言われる情景を垣間見る思いだった。

はヨーロッパ中から優秀なサラブレッドとジョッキーが集まり、世界中から3万5千人の観客が集まるスイス最高の冬季イベントで、年々規模を拡大しているとの事。賞金総額は50万スイスフラン、最高賞金が11万スイスフラン、メインスポンサーはBMW、クレディスイスとロンジンである。世界のセレブが集まるまさにアルプスの社交場と言われる由縁である。

3種のレース

そんな情景に感動していると、アナウンスが聞こえて来た。「今日は気温が高く湖に張った氷の心配があるので、定時より繰り上げてレースを行います!」と。広大な場内に設けられていたレストラン、ビアガーデン等から人々が一斉にかぶりつきの柵へと移動する。僕もすかさずコースのカーブのどこ

ろでカメラを構えた。一枚10スイスフラン(1,100円)の馬券を買い求め、第1レースを待つ。先ずはコース上をBMW X5が一周する。その間閉じていた移動式スタートゲートがスルスルと伸びてコース上に設置された。

レースは15分から30分間隔で7つのレースが行われる。その距離は1,300mから2,700mまで様々である。3種のレースとは、馬に簡易なソリを装着した1人乗りの馬車レース、サラブレッドに騎手が乗る競馬、そして最も観客が興奮する競技シーエリンは、一頭の馬から伸びた長いたずなをもった騎手がスキーを履いて滑走するという、実にスリリングなレースである。馬と騎手の間にカラフルな帆をはらませ、その帆で走り方をコントロールする。特にカーブではこの帆が重要な役目を果たしている様だった。追

力は凄まじく、一周して再度目の前に先頭で通り過ぎようとした馬には滑走する騎手が居なかった。途中で転倒したものと思われたが、このレースの困難さを物語っていた。7つの競技の中で最も長い2,700mで行われるから、ハプニングも多い競技なのだろう。何れのレースも、馬のひずめから舞い上がる雪煙で辺り一面真っ白になる。その幻想的な風景もこの競技の魅力ではある。

馬券は全て外れだったが、迫力あるレースを目の当たりにする事が出来たし、優雅なレース会場の雰囲気にも接して大満足だった。P.B.

Profile

伊藤英一

事業家。ボート歴は10代から既に半世紀以上。欧米の多くのリゾート地を訪れ、その土地の食やワイン、アート、音楽等に触れることを至上の喜びとしている。RIVAとRIBの熱烈な愛好家。